



# 自分たちの地域は自分たちで守る！！ もう1つの備え！共助の取り組み

阪神・淡路大震災では、生き埋めになって自力での脱出が困難になった人のうち、防災、救助を担う職員によって救出されたのは約20%で、80%の人は近隣の住民によって救出されています。消防や警察などの公的機関による救出・救護が間に合わない時、一番頼りになるのが、「共助」、すなわち地域住民一人ひとりによる助け合いなのです。

## ■向こう三軒両隣

～つながりづくりとたすけあい～

あなたは、自宅の向かい側3軒と左右の2軒の家の家族構成が分かりますか？支援を必要とするのは、高齢者や障がい者の方だけではありません。生き埋めになって怪我をしたあなたかも。災害時のために、普段から挨拶等の「つながりづくり」とお互いに声を掛け合って、手を差し伸べ合える「たすけあい」のコミュニティづくりが大切です。

## ■地域を守る自主防災組織とは？

災害発生時に、家屋の倒壊により生き埋めになった方の救助や、火災が発生した場合の消火活動など、災害の初期段階で活動を行うことにより、減災につなげるための組織です。町内の自主防災組織は、44町内会のうち、34町内会で結成され、災害時に備えて、日頃から訓練等に取り組んでいます。

## 自主防災組織の例



西当別連絡協議会 防災への取り組み

西当別連絡協議会総務 伊畑能孝さん



西当別地区での防災研修は平成18年から始まりました。当初は4町内会の参加でしたが、役場、消防署、警察署などの指導の下、とてもよい経験になると太美地区全体での合同研修会となってきました。

災害の初期は行政も手一杯でしょうから救助は当てに出来ません。民生委員や町内会長など、地域を熟知している人がまず動かなければならないでしょう。それぞれの町内会でも普段から会合の出席率を高めたり、顔や名前をお互いに把握するような努力が必要です。自分だって助けてもらう立場になることもありますからね。

西当別連絡協議会会長 山田宏さん



ここは歴史的には水害の地帯ですが、今はどんな災害が来るかわからない。救助法のほか避難所の設営や運営、炊き出しなど総合的な訓練を経験してとても良かった。

東日本大震災を目の当たりにして、今年は参加者の関心も高いと思います。

災害が実際に起こったら、避難所には町内会の枠を超えた広い地域から人が集まります。西当別全体の広域訓練を行うことで、より実際に即した行動がとれるようになると思います。



炊き出し訓練  
西当別連絡協議会



救急法講習会  
西当別連絡協議会



自主的に整備した防災倉庫  
元町自主防災組織



声かけ活動  
春日町自主防災組織



災害図上訓練(DIG)  
北栄町自主防災組織

北海道防災情報を活用しましょう！

QRコードからアクセス⇒



北海道では、気象庁が発表する気象情報（気象警報・地震情報・津波情報・火山情報）及び市町村が発表する避難情報（指示・勧告・解除）等をあらかじめ登録頂いた携帯電話メールアドレスに送信するサービスを行っています。事前にメールアドレスを登録しておく、外出先などでも関連情報をいち早く入手することが可能になりますので、ぜひご登録ください。

【問合せ】総務部総務課総務係 ☎ 23-2330